

(1) 概況

平成22年の大分県鉱工業生産指数（平成17年＝100）は、図1で見られるように98.5で前年比7.4%と上昇した。

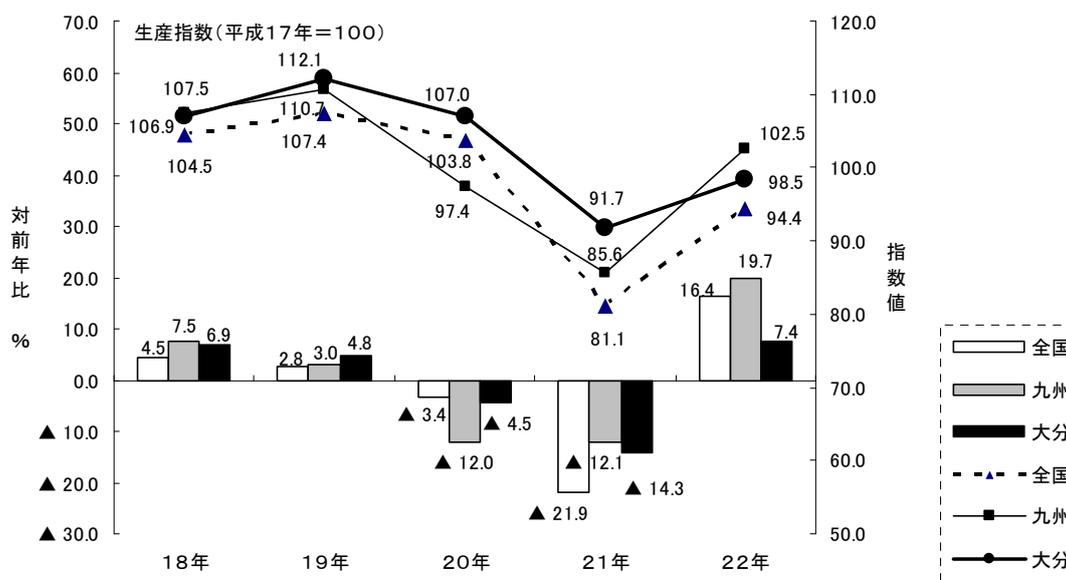
全国の生産指数は94.4で前年比16.4%と、九州は102.5で前年比19.7%となり、いずれも大きく上昇した。

生産指数を業種別にみると、前年に比べ、その他製品工業、一般機械工業、鉄鋼業等の10業種が上昇し、金属製品工業、情報通信機械工業、繊維工業等、10業種が低下した。財別では最終需要財が3年連続の低下、生産財は前年比20.5%と大幅に上昇した。

出荷指数は、103.9で前年比9.8%となり、3年ぶりに上昇した。業種別にみると、前年に比べ、一般機械工業、その他製品工業、鉄鋼業等の13業種が上昇し、金属製品工業、家具工業、食料品工業等7業種が低下した。

在庫指数は、96.8で前年比5.3%となり、2年ぶりに上昇した。業種別にみると、前年に比べ、プラスチック製品工業、その他製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業等11業種が上昇し、電子部品・デバイス工業、電気機械工業、繊維工業等7業種が低下した。

図1 生産指数及び対前年比の推移（統計表1）



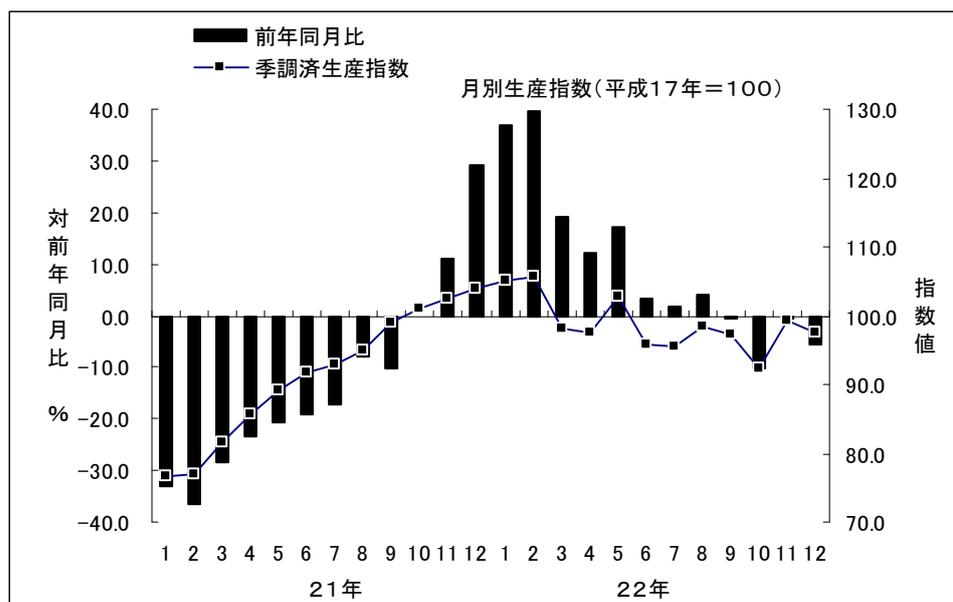
(ア) 生産活動の特徴

a 生産指数は3年ぶりに上昇

平成22年平均生産指数は98.5で、対前年比7.4%と3年ぶりに上昇した。

図2 月別生産指数（季節調整済指数）及び対前年同月比（原指数）の推移

(統計表7)



b 10業種が上昇、10業種が低下

平成22年平均生産指数を業種別にみると、石油製品工業が2年連続上昇するなど、20業種中10業種が上昇した。一方、繊維工業が7年連続、食料品工業が6年連続低下するなど、10業種が低下した。

上昇した10業種は、その他製品工業（対前年比49.9%）、一般機械工業（同43.0%）、鉄鋼業（同31.9%）であり、低下した10業種の主な業種は、金属製品工業（同▲20.9%）、情報通信機械工業（同▲15.6%）、繊維工業（同▲6.7%）などである

平成22年平均生産指数は98.5で、対前年比7.4%と上昇した。

(イ) 四半期別の動向

表1は、平成22年の四半期別生産指数の推移を示したものである。

本県においては、Ⅰ期は前期比で上昇したものの、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期は前期比で低下した。

業種別四半期別の動向は、表2のとおりである。

表1 四半期別生産指数（季節調整済）の推移（統計表10）

区分	全国		九州		大分		
	指数	前期比 (%)	指数	前期比 (%)	指数	前期比 (%)	前年同期比 (%)
22年1～3月	94.6	7.4	101.6	6.7	103.0	0.5	31.2
4～6月	95.3	0.7	103.0	1.4	98.7	▲4.2	11.1
7～9月	94.3	▲1.0	103.6	0.6	97.0	▲1.7	1.5
10～12月	94.2	▲0.1	102.4	▲1.2	96.3	▲0.8	▲6.0

表2 業種別四半期別生産指数（季節調整済）の推移（統計表10）

業種別	生産指数				前期比 (%)			
	22年				22年			
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
鉱工業総合	103.0	98.7	97.0	96.3	0.5	▲4.2	▲1.7	▲0.8
製造工業	103.2	98.9	97.2	96.5	0.5	▲4.2	▲1.7	▲0.8
鉄鋼業	111.5	113.9	109.5	110.5	▲0.8	2.2	▲3.9	0.9
非鉄金属工業	108.6	95.4	96.5	106.5	5.8	▲12.1	1.2	10.3
金属製品工業	78.8	71.9	65.1	63.2	▲1.3	▲8.8	▲9.5	▲2.9
一般機械工業	118.7	132.8	148.3	140.4	11.0	11.8	11.7	▲5.4
電気機械工業	179.1	131.5	87.0	56.7	21.6	▲26.6	▲33.8	▲34.8
情報通信機械工業	99.4	85.9	69.2	75.4	2.3	▲13.6	▲19.4	9.0
電子部品・デバイス工業	93.6	84.5	88.1	88.8	▲5.6	▲9.7	4.2	0.9
輸送機械工業	150.9	149.5	145.1	136.3	15.7	▲1.0	▲2.9	▲6.0
精密機械工業	127.2	134.4	126.1	118.1	▲4.5	5.7	▲6.2	▲6.4
窯業・土石製品工業	81.9	77.1	82.7	78.4	▲2.8	▲5.9	7.4	▲5.3
化学工業	82.1	85.0	91.0	96.5	▲17.7	3.6	7.0	6.1
石油製品工業	103.8	88.5	101.6	99.7	▲2.8	▲14.7	14.8	▲1.9
繊維工業	28.7	28.5	28.6	27.7	▲1.6	▲0.8	0.4	▲3.1
木材・木製品工業	81.6	79.9	80.4	83.5	▲3.3	▲2.1	0.7	3.9
食料品工業	81.0	84.5	81.4	81.2	▲7.9	4.3	▲3.6	▲0.3
その他工業	94.1	97.9	93.9	96.1	8.5	4.1	▲4.2	2.4
パルプ・紙・紙加工品工業	92.7	90.9	92.0	94.3	0.7	▲2.0	1.3	2.5
家具工業	49.3	52.2	52.0	45.7	0.3	5.9	▲0.3	▲12.2
プラスチック製品工業	102.9	111.8	101.3	106.5	5.8	8.6	▲9.4	5.1
その他製品工業	94.4	98.7	99.6	100.3	28.8	4.6	0.9	0.7
鉱業	82.7	81.0	79.6	79.2	1.4	▲2.0	▲1.8	▲0.5

<四半期別動向の詳細>

a 1～3月期

生産指数は、103.0で前期比0.5%の上昇となった。この期は、全20業種中10業種が上昇、10業種が低下となった。上昇した業種は、その他製品工業（前期比28.8%）、電気機械工業（同21.6%）、輸送機械工業（同15.7%）などである。

一方、低下した主な業種は、化学工業（前期比▲17.7%）、食料品工業（同▲7.9%）、電子部品・デバイス工業（同▲5.6%）などである。

b 4～6月期

生産指数は、98.7で前期比▲4.2%の低下となった。この期は、全20業種中8業種が上昇、12業種が低下となった。上昇した主な業種は、一般機械工業（前期比11.8%）、プラスチック製品工業（同8.6%）、家具工業（同5.9%）などである。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲26.6%）、石油製品工業（同▲14.7%）、情報通信機械工業（同▲13.6%）などである。

c 7～9月期

生産指数は97.0で前期比▲1.7%の低下となった。この期は、全20業種中10業種が上昇、10業種が低下となった。上昇した主な業種は、石油製品工業（前期比14.8%）、一般機械工業（同11.7%）、窯業・土石製品工業（同7.4%）などである。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲33.8%）、情報通信機械工業（同▲19.4%）、金属製品工業（同▲9.5%）などである。

d 10～12月期

生産指数は、96.3で前月比▲0.8%の低下となった。この期は、全20業種中9業種が上昇、11業種が低下となった。上昇した業種は、非鉄金属工業（前期比10.3%）、情報通信機械工業（同9.0%）、化学工業（同6.1%）である。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲34.8%）、家具工業（同▲12.2%）、精密機械工業（同▲6.4%）などである。

(ウ) 業種別寄与率及び寄与度

総合の伸びに対して、その内訳である業種がどの程度影響を与えたかを示したものが寄与度である。

平成22年の生産指数は、前年比7.4%の上昇となっている。この伸び率に対して上昇に寄与したものが10業種、低下に寄与したものが10業種となっている。

上昇に寄与した業種は、鉄鋼業(寄与度4.0%)、一般機械工業(同2.7%)、電子部品・デバイス工業(同2.4%)である。

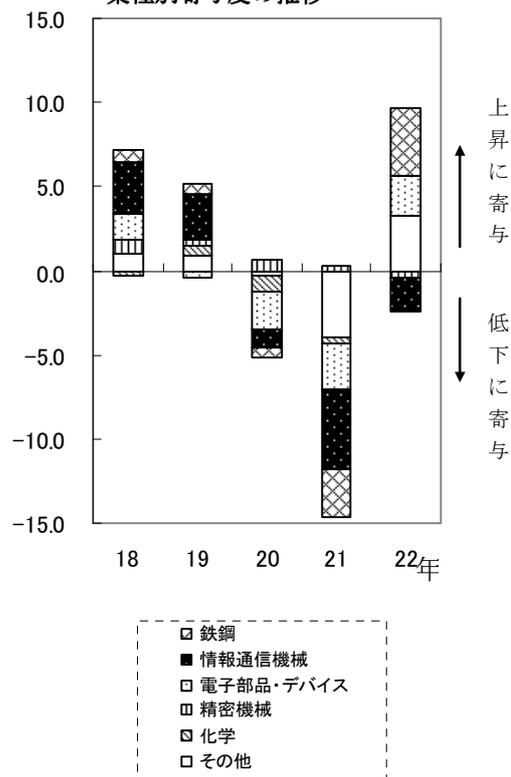
一方、低下に寄与した主な業種は、情報通信機械工業(寄与度▲2.1%)、金属製品工業(同▲0.4%)、食料品工業(同▲0.3%)などである。

また、図3は、その年の生産総合指数の伸びに対する業種別の寄与度について、平成18年以降の推移を示したものである。全ての年次において情報通信機械工業が、また、平成21年以降は鉄鋼業が大きく寄与していることがわかる。

表3 業種別寄与度表

業 種 別	寄与度(%)
鉄 工 業 総 合	7.4
製 造 工 業	7.4
鉄 鋼 業	4.0
非 鉄 金 属 工 業	▲0.3
金 属 製 品 工 業	▲0.4
一 般 機 械 工 業	2.7
電 気 機 械 工 業	0.0
情 報 通 信 機 械 工 業	▲2.1
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス 工 業	2.4
輸 送 機 械 工 業	1.3
精 密 機 械 工 業	▲0.3
窯 業 ・ 土 石 製 品 工 業	▲0.1
化 学 工 業	▲0.1
石 油 製 品 工 業	0.0
織 維 工 業	▲0.0
木 材 ・ 木 製 品 工 業	▲0.0
食 料 品 工 業	▲0.3
そ の 他 工 業	0.4
パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品 工 業	0.0
家 具 工 業	▲0.0
プ ラ ス チ ッ ク 製 品 工 業	0.2
そ の 他 製 品 工 業	0.2
鉄	0.0

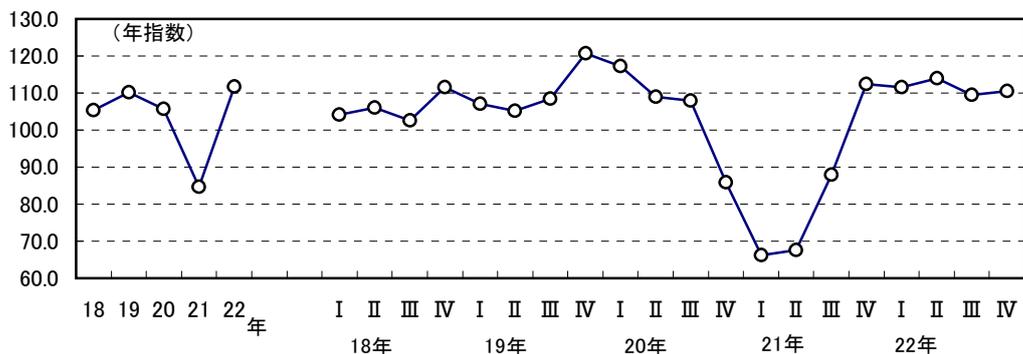
図3 鉄工業生産総合指数の伸びに対する業種別寄与度の推移



注) 本表は業種ごとに四捨五入しているので内訳と合計が一致しないことがある。

(2) 業種別の生産動向 [年指数は原指数、四半期別指数は季節調整済指数 平成17年=100]

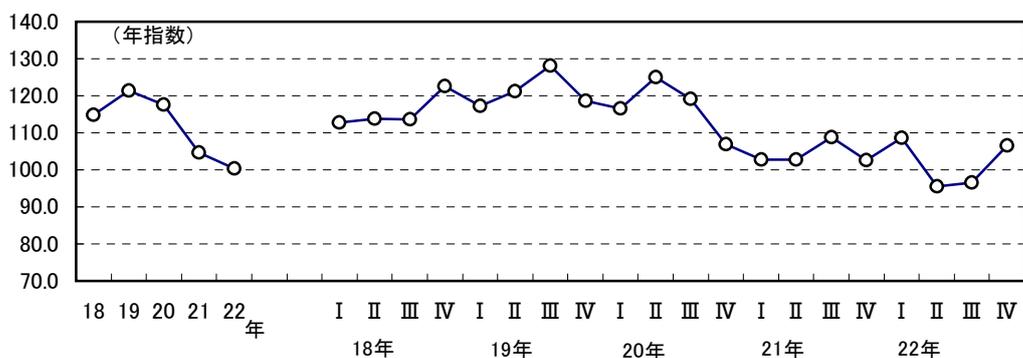
① 鉄鋼業



平成22年の鉄鋼業の生産指数は111.7で、前年比31.9%と大幅に上昇した。

[鉄鋼業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	111.7	-	31.9
Ⅰ期	111.5	▲ 0.8	68.3
Ⅱ期	113.9	2.2	68.5
Ⅲ期	109.5	▲ 3.9	24.6
Ⅳ期	110.5	0.9	▲ 1.7

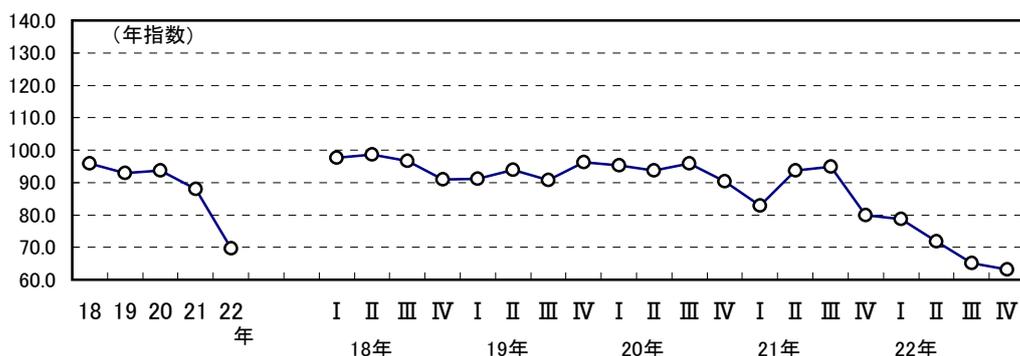
② 非鉄金属工業



平成22年の非鉄金属工業の生産指数は100.3で、前年比▲4.2%と3年連続の低下となった。

[非鉄金属工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	100.3	-	▲ 4.2
Ⅰ期	108.6	5.8	5.6
Ⅱ期	95.4	▲ 12.1	▲ 7.1
Ⅲ期	96.5	1.2	▲ 11.2
Ⅳ期	106.5	10.3	3.8

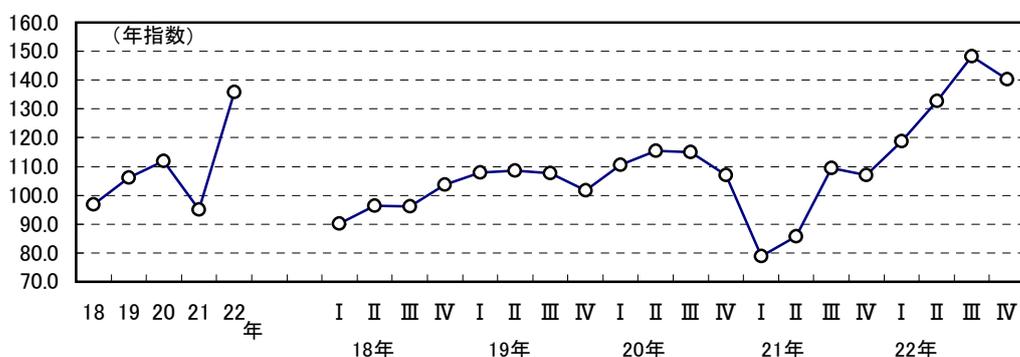
③ 金属製品工業



平成22年の金属製品工業の生産指数は69.6で、前年比▲20.9%と2年連続の低下となった。

〔金属製品工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	69.6	-	▲ 20.9
Ⅰ期	78.8	▲ 1.3	▲ 4.8
Ⅱ期	71.9	▲ 8.8	▲ 23.4
Ⅲ期	65.1	▲ 9.5	▲ 31.4
Ⅳ期	63.2	▲ 2.9	▲ 20.9

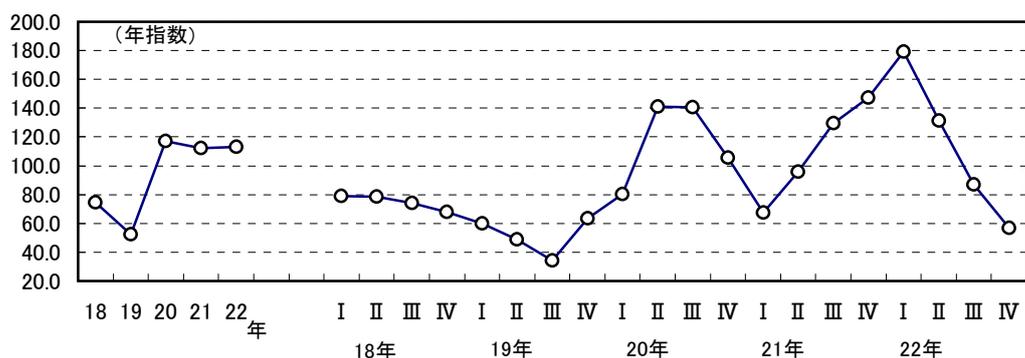
④ 一般機械工業



平成22年の一般機械工業の生産指数は135.9で、前年比43.0%と大幅に上昇した。

〔一般機械工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	135.9	-	43.0
Ⅰ期	118.7	11.0	50.5
Ⅱ期	132.8	11.8	54.9
Ⅲ期	148.3	11.7	35.5
Ⅳ期	140.4	▲ 5.4	31.2

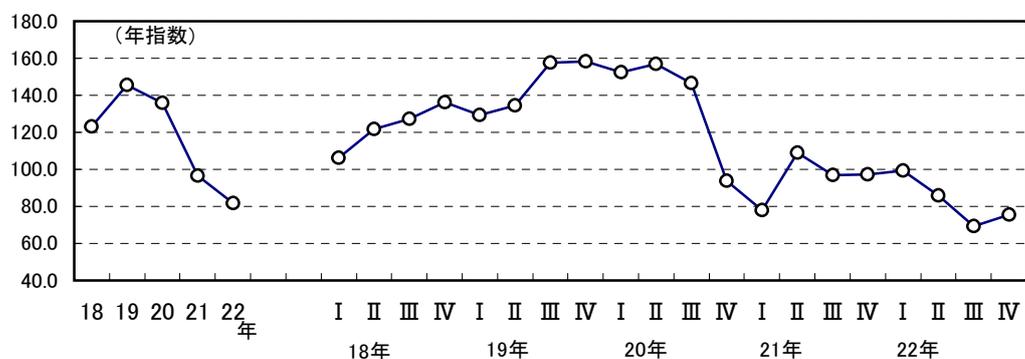
⑤ 電気機械工業



平成22年の電気機械工業の生産指数は113.0で、第1四半期に上昇したもののそれ以降は大幅に低下した。

〔電気機械工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	113.0	-	0.8
Ⅰ期	179.1	21.6	165.9
Ⅱ期	131.5	▲ 26.6	37.5
Ⅲ期	87.0	▲ 33.8	▲ 32.8
Ⅳ期	56.7	▲ 34.8	▲ 61.5

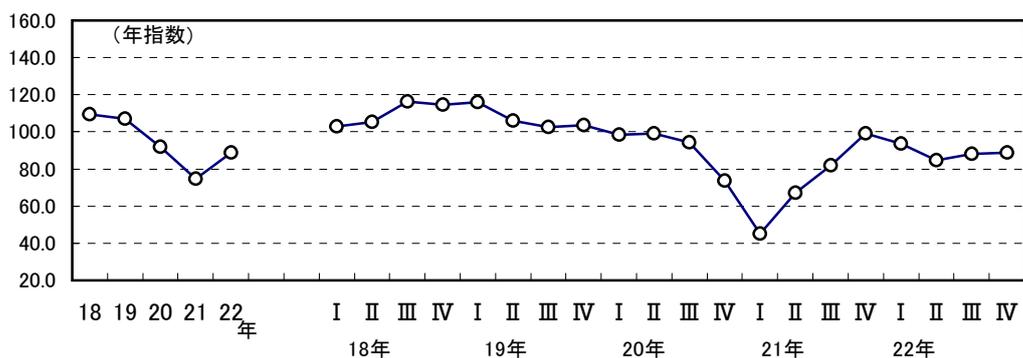
⑥ 情報通信機械工業



平成22年の情報通信機械工業の生産指数は81.6で、前年比▲15.6%と3年連続で低下した。

〔情報通信機械工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	81.6	-	▲ 15.6
Ⅰ期	99.4	2.3	27.9
Ⅱ期	85.9	▲ 13.6	▲ 21.1
Ⅲ期	69.2	▲ 19.4	▲ 28.5
Ⅳ期	75.4	9.0	▲ 22.4

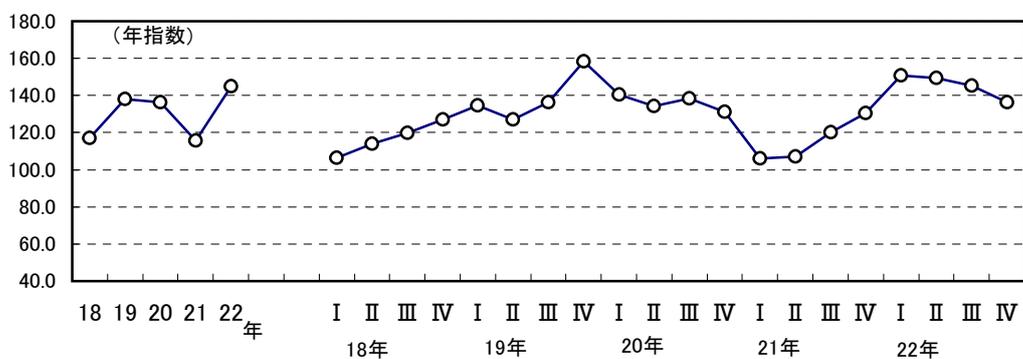
⑦ 電子部品・デバイス工業



平成22年の電子部品・デバイス工業の生産指数は88.7で、前年比18.5%と4年ぶりに上昇した。

〔電子部品・デバイス工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	88.7	-	18.5
I期	93.6	▲ 5.6	107.7
II期	84.5	▲ 9.7	26.0
III期	88.1	4.2	7.6
IV期	88.8	0.9	▲ 10.4

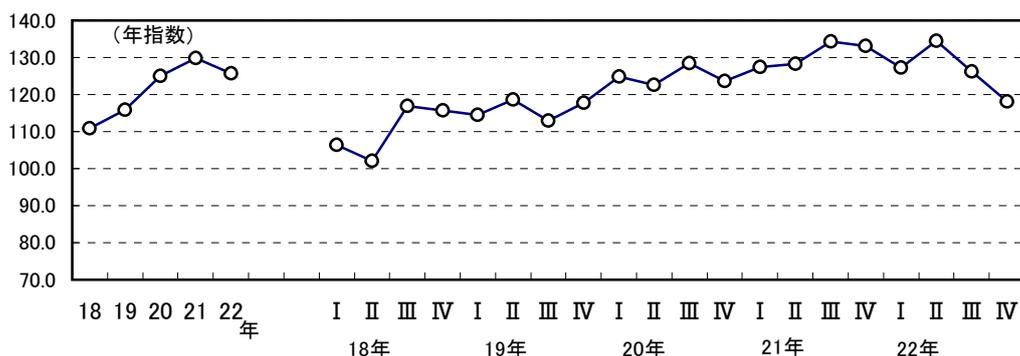
⑧ 輸送機械工業



平成22年の輸送機械工業の生産指数は144.9で、前年比25.1%と大幅に上昇した。

〔輸送機械工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	144.9	-	25.1
I期	150.9	15.7	42.3
II期	149.5	▲ 1.0	39.5
III期	145.1	▲ 2.9	20.7
IV期	136.3	▲ 6.0	4.6

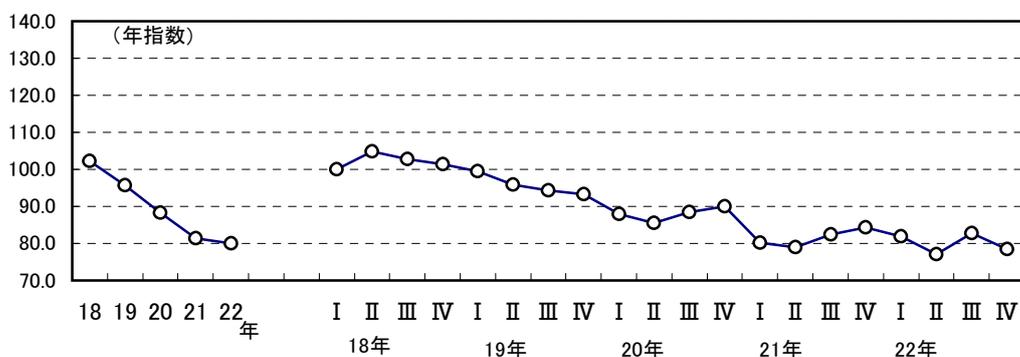
⑨ 精密機械工業



平成22年の精密機械工業の生産指数は125.7で、前年比▲3.2%と5年ぶりに低下したものの、依然高水準を保っている。

〔精密機械工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	125.7	-	▲ 3.2
I 期	127.2	▲ 4.5	▲ 0.2
II 期	134.4	5.7	4.8
III 期	126.1	▲ 6.2	▲ 6.0
IV 期	118.1	▲ 6.4	▲ 11.3

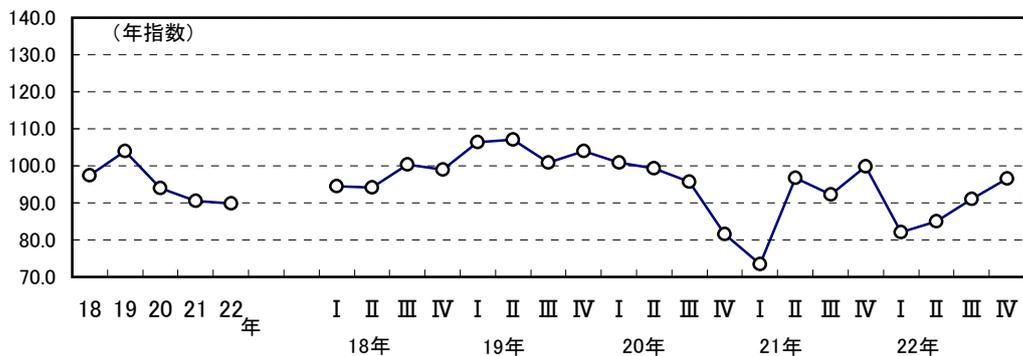
⑩ 窯業・土石製品工業



平成22年の窯業・土石製品工業の生産指数は80.0で、前年比▲1.7%と4年連続の低下となった。

〔窯業・土石製品工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	80.0	-	▲ 1.7
I 期	81.9	▲ 2.8	2.2
II 期	77.1	▲ 5.9	▲ 2.5
III 期	82.7	7.4	0.4
IV 期	78.4	▲ 5.3	▲ 7.0

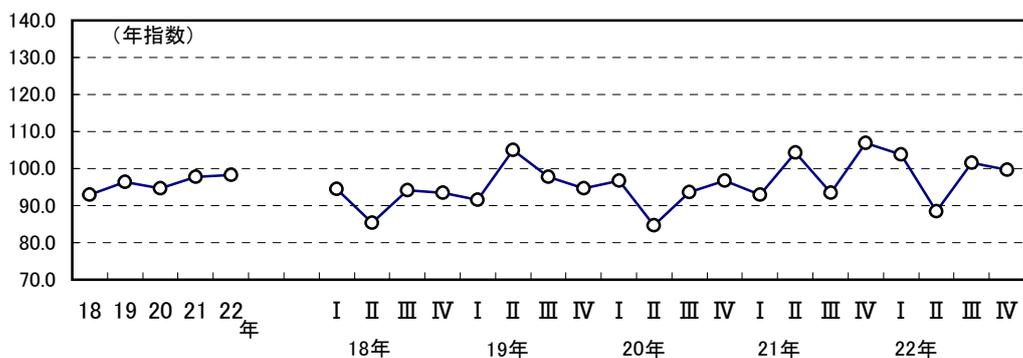
⑪ 化学工業



平成22年の化学工業の生産指数は89.9で、第1四半期に大幅に低下したもののそれ以降は上昇した。

[化学工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	89.9	-	▲ 0.6
I期	82.1	▲ 17.7	11.9
II期	85.0	3.6	▲ 12.1
III期	91.0	7.0	▲ 1.3
IV期	96.5	6.1	▲ 3.2

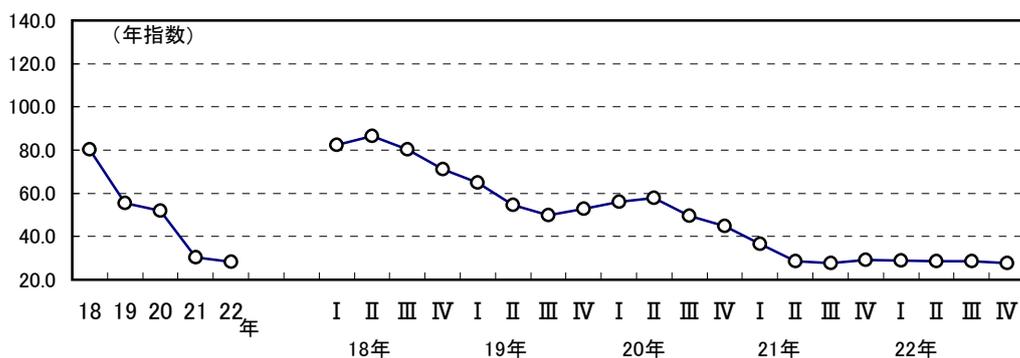
⑫ 石油製品工業



平成22年の石油製品工業の生産指数は98.3で、前年比0.6%となった。

[石油製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	98.3	-	0.6
I期	103.8	▲ 2.8	11.6
II期	88.5	▲ 14.7	▲ 15.2
III期	101.6	14.8	8.8
IV期	99.7	▲ 1.9	▲ 6.6

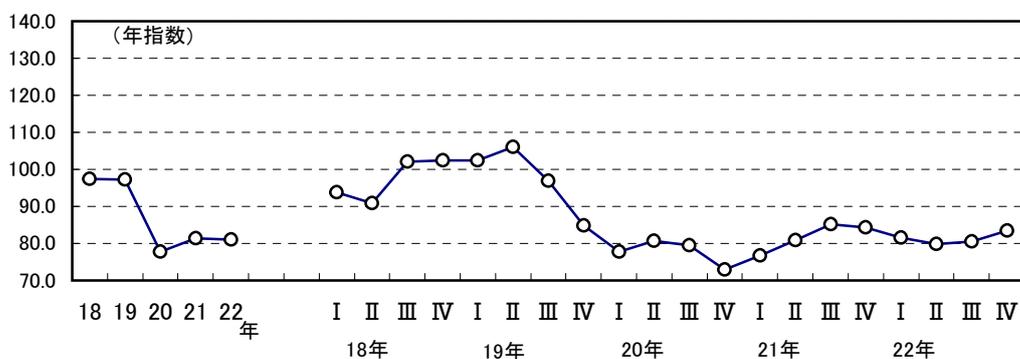
⑬ 繊維工業



平成22年の繊維工業の生産指数は28.4で、前年比▲6.7%と7年連続の低下となった。

[繊維工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	28.4	-	▲6.7
I期	28.7	▲1.6	▲21.4
II期	28.5	▲0.8	▲0.2
III期	28.6	0.4	3.6
IV期	27.7	▲3.1	▲5.1

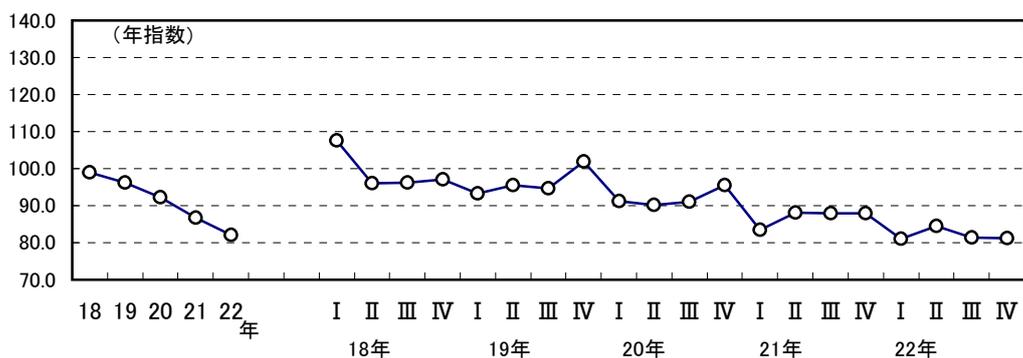
⑭ 木材・木製品工業



平成22年の木材・木製品工業の生産指数は81.1で、前年比▲0.3%と平成21年とほぼ横ばいの水準が続いている。

[木材・木製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
22年	81.1	-	▲0.3
I期	81.6	▲3.3	6.4
II期	79.9	▲2.1	▲1.2
III期	80.4	0.7	▲5.6
IV期	83.5	3.9	▲1.0

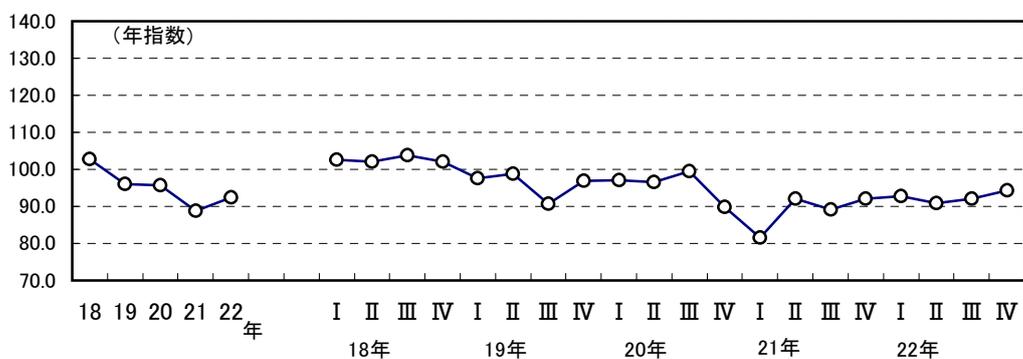
⑮ 食料品工業



平成22年の食料品工業の生産指数は82.1で、前年比▲5.4%と6年連続の低下となった。

〔食料品工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	82.1	-	▲ 5.4
I 期	81.0	▲ 7.9	▲ 2.9
II 期	84.5	4.3	▲ 4.0
III 期	81.4	▲ 3.6	▲ 7.4
IV 期	81.2	▲ 0.3	▲ 7.7

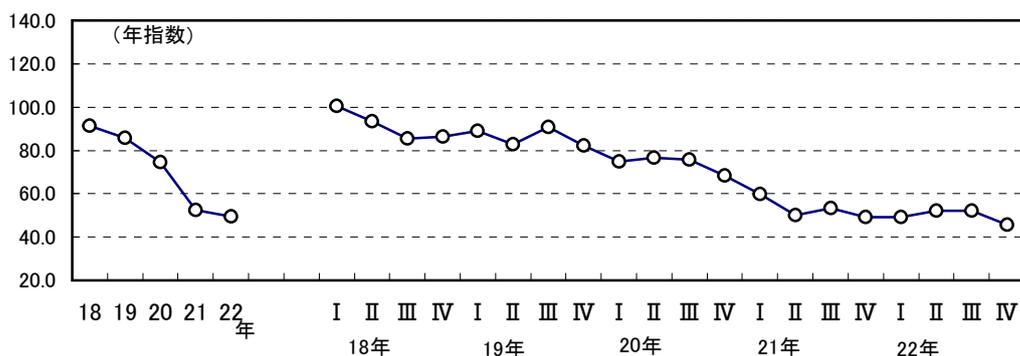
⑯ パルプ・紙・紙加工品工業



平成22年のパルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は92.4で、前年比4.0%と4年ぶりに上昇した。

〔パルプ・紙・紙加工品工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	92.4	-	4.0
I 期	92.7	0.7	13.8
II 期	90.9	▲ 2.0	▲ 1.3
III 期	92.0	1.3	3.2
IV 期	94.3	2.5	2.4

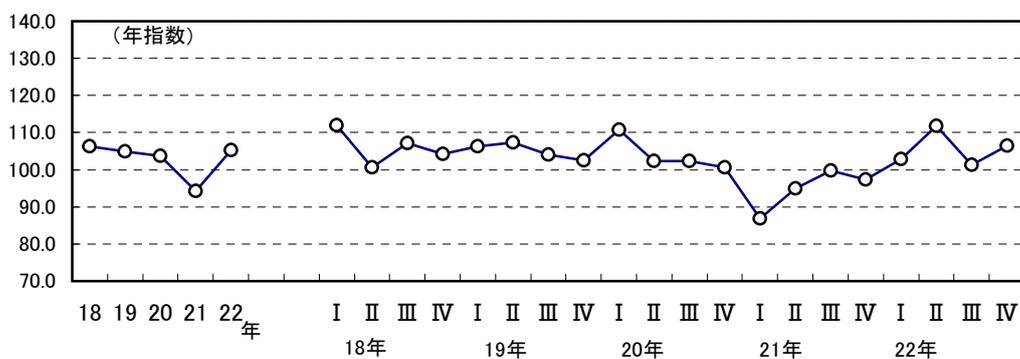
⑰ 家具工業



平成22年の家具工業の生産指数は49.6で、前年比▲5.5%と5年連続の低下となった。

[家具工業]	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	49.6	-	▲ 5.5
I期	49.3	0.3	▲ 17.7
II期	52.2	5.9	4.1
III期	52.0	▲ 0.3	▲ 2.6
IV期	45.7	▲ 12.2	▲ 7.1

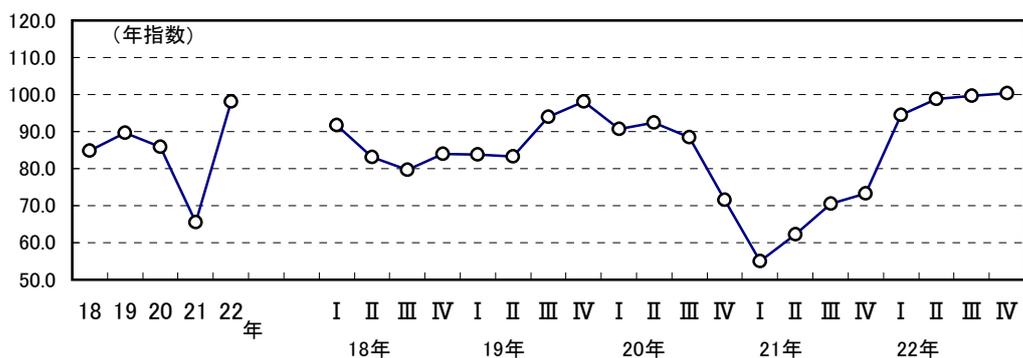
⑱ プラスチック製品工業



平成22年のプラスチック製品工業の生産指数は105.3で、前年比11.8%と4年ぶりに上昇した。

[プラスチック製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	105.3	-	11.8
I期	102.9	5.8	18.5
II期	111.8	8.6	17.6
III期	101.3	▲ 9.4	1.5
IV期	106.5	5.1	9.5

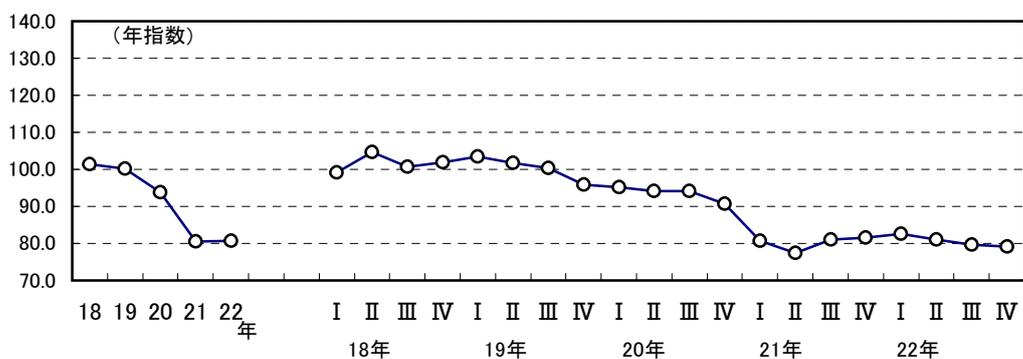
⑱ その他製品工業



平成22年のその他製品工業の生産指数は98.2で、前年比49.9%と3年ぶりの大幅な上昇となった。

〔その他製品工業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	98.2	-	49.9
I期	94.4	28.8	71.7
II期	98.7	4.6	58.8
III期	99.6	0.9	41.1
IV期	100.3	0.7	36.9

⑳ 鉱業



平成22年の鉱業の生産指数は80.6で、前年比0.2%と平成21年とほぼ横ばいの水準が続いている。

〔鉱業〕	生産指数	前期比 (%)	前年 (同期) 比 (%)
22年	80.6	-	0.2
I期	82.7	1.4	2.5
II期	81.0	▲ 2.0	4.7
III期	79.6	▲ 1.8	▲ 1.7
IV期	79.2	▲ 0.5	▲ 2.8

(3) 特殊分類 (財別) の生産動向

特殊分類とは、それぞれの品目を経済的用途によって分類したものであり、その内容は表4のとおりである。

表4 特殊分類 (財別) の分類定義

分類	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない最終製品 ただし、建設財を含み、企業消費財を除く
投資財	資本財と建設財の合計
資本財	主として家計以外で購入される財で耐用年数1年以上の財
建設財	建築用と土木用の合計
消費財	主として家計で購入される財
耐久消費財	耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高い製品
非耐久消費財	耐用年数が1年未満、又は比較的購入単価が安い製品
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料として投入される商品 ただし、輸出用の中間生産物、企業消費財を含み、建設財を除く

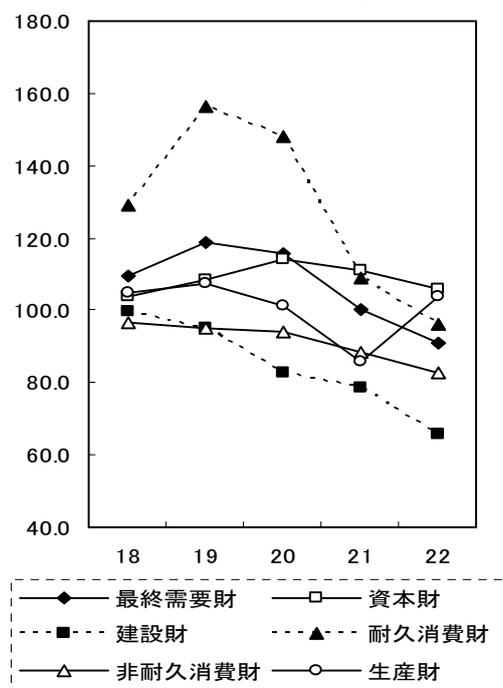
図4は、平成18年以降の特分類 (財別) 生産指数の推移を表したものである。

平成22年は、最終需要財は3年連続で低下し、生産財は3年ぶりに上昇した。

表5 特殊分類 (財別) 生産指数 (統計表11)

分類	平成22年生産指数	前年比 (%)
鉱工業総合	98.5	7.4
最終需要財	91.1	▲8.9
投資財	92.1	▲7.8
資本財	105.7	▲4.7
建設財	65.9	▲15.9
消費財	90.2	▲9.9
耐久消費財	95.9	▲11.9
非耐久消費財	82.5	▲6.4
生産財	103.6	20.5

図4 特殊分類(財別)生産指数の推移 (統計表11)



(ア) 終需要財

a 投資財

投資財の生産指数は、92.1で前年比▲7.8%となり、3年連続の低下となった。内訳をみると、資本財の生産指数は、105.7で前年比▲4.7%と2年連続の低下となり、建設財の生産指数は、65.9で前年比▲15.9%と5年連続の低下となった。

b 消費財

消費財の生産指数は、90.2で前年比▲9.9%となり、3年連続の低下となった。内訳をみると、耐久消費財の生産指数は、95.9で前年比▲11.9%と3年連続の低下となり、非耐久消費財の生産指数は、82.5で前年比▲6.4%と5年連続の低下となった。

(イ) 生産財

生産財の生産指数は、103.6で前年比20.5%と、3年ぶりに上昇となった。

図5は、総合生産指数の伸びに対する財別の寄与度について平成18年以降の推移を表にしたものである。

平成22年は、生産財の及ぼす影響が非常に大きくなっている。

図5 鉱工業総合指数の伸びに対する財別寄与度の推移

